第 12 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：令和 5 年 3 月 13 日(月) 10:00～12:00
2. 場 所：千曲河川事務所 2 階 大会議室 及び オンライン会議
3. 出席者：平林座長、豊田委員、笠原委員、北野委員、尾関委員、田端委員、傳田委員、川上委員(代理:池田氏)、仙波委員、横田委員 (代理:曲渕氏)、湯本委員、関委員、三浦委員(代理：嶋尾氏)、水澤委員、北條委員、依田委員、中根委員
※Web 参加含む

【配付資料】

- ・ 議事次第、出席者名簿、座席図
- ・ 資料-1：前回検討会における意見と対応状況
- ・ 資料-2：自然再生事業の実施状況
- ・ 資料-3：令和 4 年度モニタリング調査結果報告
- ・ 資料-4：令和 5 年度整備予定箇所の掘削案
- ・ 資料-5：地域連携の取組状況
- ・ 資料-6：今後の予定
- ・ 参考資料-1：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 設立趣旨
- ・ 参考資料-2：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 規約
- ・ 参考資料-3：第 11 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

4.議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見）

- 1) 資料 1 前回検討会における意見と対応状況、資料-2 自然再生事業の実施状況 について
＊3 ページの簡易水位計について、観測間隔やどのようなデータを取得できているのかをご教示頂きたい。また、その他河川管理施設における観測について、杭瀬下、生田以外の状況を簡単にご説明頂きたい。
→ 簡易水位計は現地に設置されており、基本的には継続的に 10 分間隔で計測している。ただし、常時データを取得できる機器ではないため、水位計のデータ回収が必要である。また、その他河川管理施設における観測については、内外水位を測定しており、事務所にて常時データを取得できる。
- 2) 資料 3 令和 4 年度モニタリング調査結果報告 について
◇2/27 にモニタリング部会を開催し、今後のモニタリングの方針(15 ページ)を提示し、概ね了解いただいた。なお、代表地点の結果の千曲川全体への適用可能性、対象項目ご

との調査頻度についてご意見をいただいている。ご意見を踏まえ、データ、調査計画を再度整理し、次回のモニタリング部会で提示予定である。

*魚類調査について、冠着地区（6 ページ）の出水前調査はいつ実施されたのか。調査方法や頻度は出水前後で比較可能なものだと理解してよいか。

→平成30年の調査結果である。調査手法や頻度は、今年の調査と同様である。

*古舟橋地区（8 ページ）や荻屋原・磯部地区（10 ページ）では、礫が砂で半分覆われており、冠着地区（5 ページ）では礫が露出しているように見える。砂礫河原で営巣する鳥類にとって、礫が砂で覆われていない方が好ましいのか。その場合、地区ごとの砂量の違いの要因はモニタリング結果から確認できているか。

→コチドリは礫河原を好む鳥類であるため、このようなモニタリング結果となっている。冠着地区では砂州の移動がなく、出水により砂分が流れた結果、礫が残存したと認識している。一方、古舟橋地区では砂州が大きく移動する中で、河川の流動形状がそのまま残り、砂分が残存したと認識している。

→補足として、古舟橋地区は、もともとコチドリが少ない地域であり、砂が要因ではない。イカルチドリは礫を好むが、コチドリは砂地を好むため、古舟橋地区も砂地ができると、他の条件が悪くてもコチドリが繁殖する。冠着地区でも、砂地ができるとコチドリが増えるが、砂地は植生に覆われやすく営巣環境がすぐに減ってしまう。

→古舟橋地区は河床材料以外の要因として、上田市の焼却場が近くにあり、カラスが溜まるため鳥類同士の生物間相互作用が効いている特殊な場所であることも留意いただきたい。

3) 資料4 令和5年度整備予定箇所の掘削案 について

◇2/2に技術部会を開催し、今後の方針に従い、検討を進めている。なお、掘削面の縦断勾配の考え方の根拠、掘削を行うことによる将来の砂州移動の可能性についてご意見をいただいている。ご意見を踏まえ、根拠等を整理し、次回の技術部会で報告予定である。

*BOI(9 ページ)について、「BOI<1 の場合、樹木は破壊されにくい」と記載があるが、10 ページでは全て BOI が 1 未満となっていることから、記載間違いではないか。

→: 記載間違いではなく、研究等の成果から、「BOI<1 の場合、樹木は破壊されにくい」ことを一つの指標として掘削計画を検討している。指摘の通り、現在検討している掘削計画ではなるべく BOI を 1 に近づけられるよう、さらなる工夫を検討し、次回技術部会に報告したいと考えている。

4) 資料 5 地域連携の取組状況について

☆千曲市では継続して自然再生事業を実施していただいております、このような貴重な環境は、市民が活用できる市の財産と認識している。事業について市民の理解が少しでも増えるよう取り組んでいけるとよいと考える。

*提案のあった、写真から生物種を判定し、位置情報等を含めてデータを蓄積できる携帯アプリ（以下、携帯アプリ）について、河川事務所や国土交通省が活用した事例はあるか。また、今年度の自然体験学習会の取り組み結果は、来年度の検討会で報告頂けるのか。

→携帯アプリについて、国土交通省での活用した事例について現時点で確認されていないが、環境省や自治体で活用した事例は確認している。また、今年度の自然体験学習会の取り組みについて、今後の検討会でご報告させて頂く。

→参考として、環境省や大阪府等の自治体が気候変動に関連した生物分布調査に携帯アプリを導入した事例がある。

*千曲川での携帯アプリを使った生物の登録状況をご教示頂きたい。

→千曲川の本川についてはデータがほとんどないが、支川や流域についてはいくつか調査データがある。

→今後、このような携帯アプリを活用した生物データの活用は河川水辺の国勢調査データを補完する可能性があるとして注目されている。特に支川等の河川水辺の国勢調査対象範囲外において携帯アプリのデータを取ることができれば、河川環境の整理にフィードバックできる。是非、携帯アプリをうまくご活用頂きたい。

5) 資料-6：今後の予定について

*地域連携の取組についても、全体の予定表に追記いただき、事業の取組進捗が見えるように整理いただくとよい。

→承知した。

以上